

JPTA 能登国際女子オープン

主催：(社)日本プロテニス協会 公認：国際テニス連盟・(財)日本テニス協会 特



能登から世界へ!

テニスの町・能登町で初めて開催されたJPTA (社)日本プロテニス協会) 能登国際女子オープンテニス2007。世界への登竜門として、日本や海外の若手プロ選手が6月23日から7月1日までの9日間にわたって熱戦を繰り広げました。



CONTENTS

目次

能登から世界へ! JPTA 能登国際女子オープンテニス 2007	3
能登町祭り歳時記～あばれ祭編～	6
人の間に Vol.14 能登を新しい故郷とした抒情書家	8
公民館通信② 上町公民館	12
まちのできごと 北河内ダムコンクリート初打設式・地域づくり 連携協定調印式・柳田中学校音楽祭 など	14
くらしの掲示板 お知らせ/募集/催し/相談/ござれ祭り 能登町クイズ 100 選 など	16
文化&スポーツ案内・結果 猿鬼歩こう走ろう健康大会参加募集 納税表彰式	20
安心安全まちづくり/入札結果	22
健康インフォメーション	24
図書館・児童館案内 遊々能登～奥能登イベント情報～	25
有線テレビ番組案内	26
こせきのまど/寄付/人口動態	27



◀今月の表紙

7月6日、あばれ祭1日目は役場前広場に40数本のキリコが集結します。大松明の火の粉を浴びながら乱舞するキリコと担ぎ手を、別のキリコに乗って撮影しました。



3 佐藤直子さんの親子ふれあいテニス教室



6 八坂神社に入り宮した2基の神輿



8 抒情書家室谷さんが使う墨

能登の人情に触れ、選手たちがとても喜んでくれた

インタビュー#1



わたなべ いさお
渡辺 功 大会長
(社)日本プロテニス協会
理事長



写真上：大会前、キャラバン隊が松波保育園、小木小学校、柳田小学校を訪れ、子どもたちにテニスの楽しさを伝えました

写真下：ダブルスで準優勝した濱村夏美選手(右)と田中真梨(左)選手



地震で開催できないのではないかと協議もしましたが、幸いに施設は大丈夫ということで、少しでもお役に立ちたいとの思いで開催することになりました。私はこういう国際大会は、大都市よりも地方でやるほうが良いと思っていました。自分の現役時代の経験からも、人と人の触れ合いが選手を大きくしてくれると考えています。

能登には2日間だけの滞在でしたが、能登の自然に心が洗われました。自然と触れ合い、人と触れ合い、幸せを感じることができました。能登に来ることができてよかったですと感じています。

インタビュー#2



いらいこ たえこ
伊良子 妙子
トーナメントディレクター
(社)日本プロテニス協会
副理事長

初めての大会では、いろいろとアクシデントもあり大変でしたが、町のみなさんやスタッフが一丸となって協力してもらって、大会は成功だったと思っています。観戦に来ていただいた人からは「すごい。また観たい」など、たくさんの励ましの言葉もいただきました。もし来年も開催されることになれば、今度は「大」がつく成功になると思います。

また、選手がみんな喜んでくれました。「人が温かくて、とてもやりやすかった」と喜んで帰ってくれたことが一番よかったと思っています。食べ物も本当においしいので、来年はもっとたくさんの選手を能登に呼びたい気持ちでいっぱいです。



さとうなおこ
特別ゲスト★佐藤直子さん

全豪オープンダブルス準優勝、ウインブルドン出場17年などの実績をもつ世界的なテニスプレーヤー。6月30日には、佐藤さんが全国各地で開催している親子ふれあいテニス教室が行われました。

特別ゲスト★石黒賢さん

俳優。石黒さんの父親は元プロテニスプレーヤーであり、今大会の名誉副会長の石黒修氏。今回大会を盛り上げるために応援に来てくれました。



「今日この会場に来ている子どもたちの中から、日本を代表するようなプレーヤーが生まれてくれればこんなにうれしいことはない」と話してくれました。

大会を盛り上げた特別ゲスト
今大会の特別ゲストとして、世界的なテニスプレーヤーの佐藤直子さんと俳優の石黒賢さんが招待され、大会を盛り上げてくれました。
佐藤直子さんは、全国各地で「親子ふれあいテニス教室」を開催しています。今回も大会の記念イベントの一つとして開催され、親子約80人が佐藤さん

と一緒に汗を流しました。
石黒賢さんは、今回「少しでも能登の人に元気になってもらいたい」と大会最終日に駆け付けてくれました。
父親の影響で子どものころからテニスをしているという石黒さんは、大地震をテーマにしたドラマにも出演するなど地震は人ごとではないと感じています。「石黒賢を見て、一人でも多くの人に元気をだしてもらえれば」と記念撮影やサインにも気軽に応じてくれました。

JPTAは特に今回、地震による風評被害の一掃や被災した子どもたちの心のケアを目的として開催する目的は二つあります。一つは日本の若手選手に活躍する場を提供し、世界に羽ばたくチャンスを与え、日本のテニス界を盛り上げることで、開催地のテニスの活性化を図ることです。

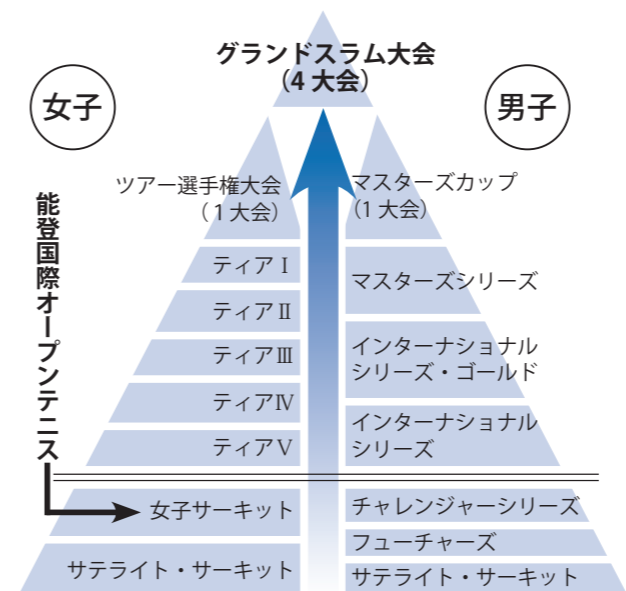
平成19年6月23日から7月1日にかけて、石川県内初となるテニスの国際大会「JPTA能登国際女子オープンテニス2007」が能登町の藤波運動公園で開催されました。
(社)日本プロテニス協会(JPTA)は、数年前より北陸地区での大会開催を模索、金城大学平下教授の推薦により、藤波運動公園が候補地として選ばれました。JPTAと協議を重ねた町は、「テニスの町」として特色あるまちづくりを推進するためにも価値あるイベントであると判断し、大会の開催を決定しました。

テニスの町づくりを推進するために決断された大会誘致

に「がんばろう能登 テニスで応援プロジェクト」として大会を開催することになりました。大会期間中は、少しでも多くの人に参加してもらおうとさまざまな記念イベントが開催され、大会を盛り上げました。

若手女子プロによる熱き戦い

この大会は、国際テニス連盟公認の女子サーキットと呼ばれる大会で、賞金総額は25000ドル、世界ランキング100位台、日本ランキング上位の選手など約70人が熱戦を繰り広げました。現在世界のテニス界はポイントによって動いています。選手たちは早くからこのポイントを獲得し、より大きな大会を目指しているのです。



世界のテニスツアーのしくみ

この大会を「きっかけ」に
「本当に世界各国から選手が集まるのだろうか」
初めての国際大会でもあり、大会前はさまざまな不安がありました。しかし、予想以上にたくさん外国人選手がエントリーし、日本ランキング上位選手も数多く出場するなどレベルの高い大会となりました。プロ選手の華やかなプレーやユニホームは、町内外から観戦に訪れたたくさんの人に大きな

印象を残してくれました。
町として大会を振り返ると、初めての試みということもあり、課題も多く見つかりました。しかし、各方面からたくさんボランティアや協力があり、無事に大会を終えることができました。
ソフトテニスでは全国的に知られているこの能登町。今大会をきっかけに硬式テニスが普及・発展し、いつか能登町から世界的に活躍するプロテニスプレーヤーが誕生することになるかもしれません。



写真右：シングルスで日本人として唯一準決勝に進出した波形純理選手(日本ランキング9位)

